萩前・一本木遺跡
現地説明会

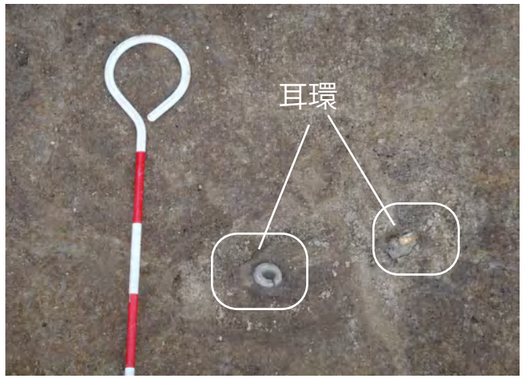
日時：平成 25 年 11 月 16 日（土）

場所：香川県農業試験場跡地

第２調査区　落ち込み出土　耳環

高松市埋蔵文化財センター

第２調査区　遺構完掘状況（西から）

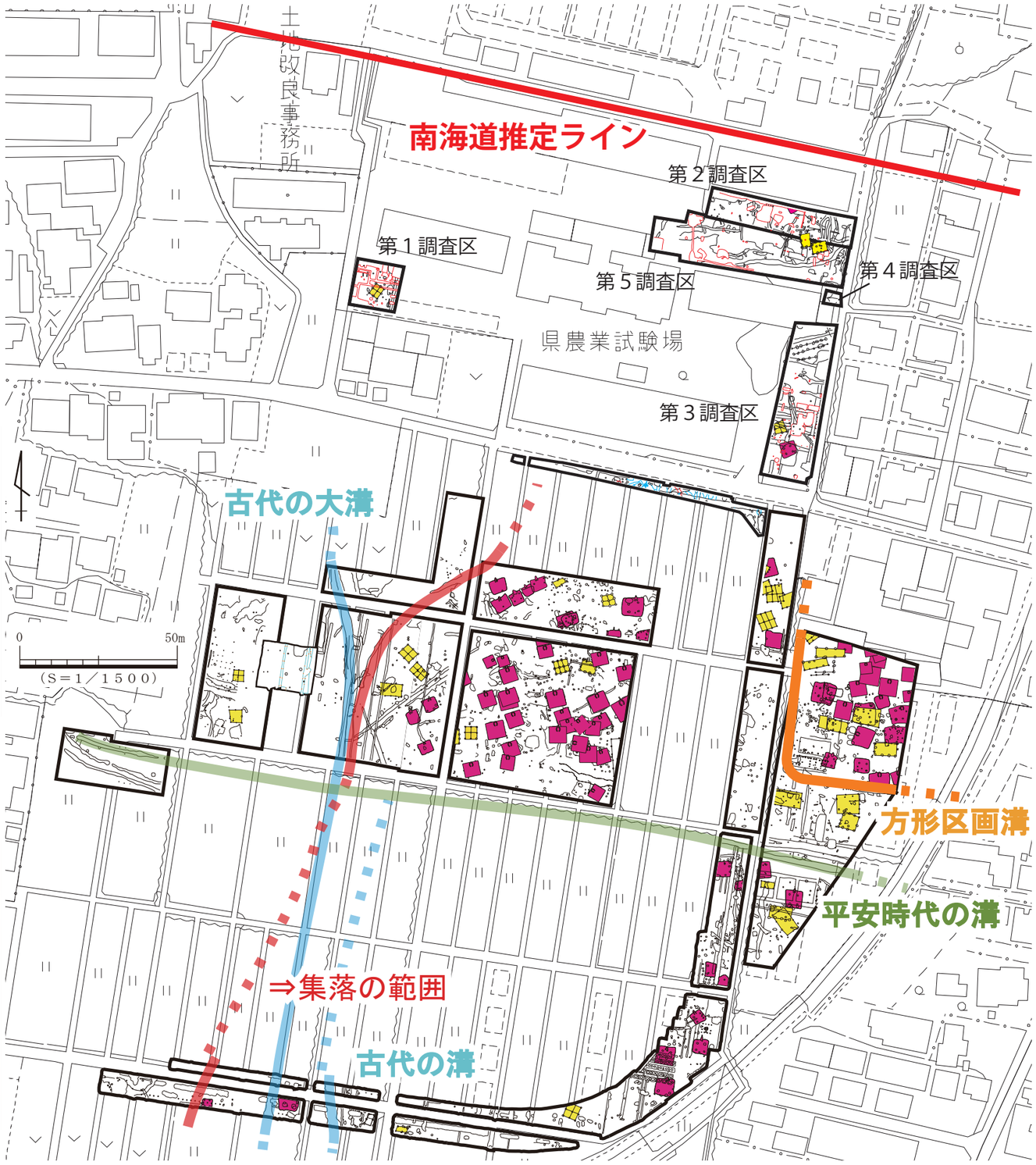


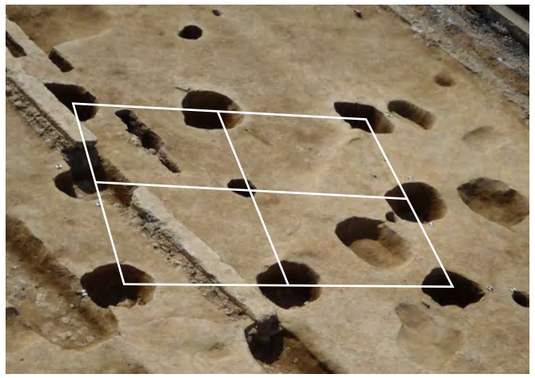
第２調査区　耳環出土状況（南から）

落ち込みから耳環が２点出土しました。青銅に金メッキが施されています。

第２調査区　遺物出土状況

土坑から，飛鳥時代（7 世紀）の生焼けの須恵器の杯 2 点，台付椀が 1 点出土しました。





第１調査区　掘立柱建物

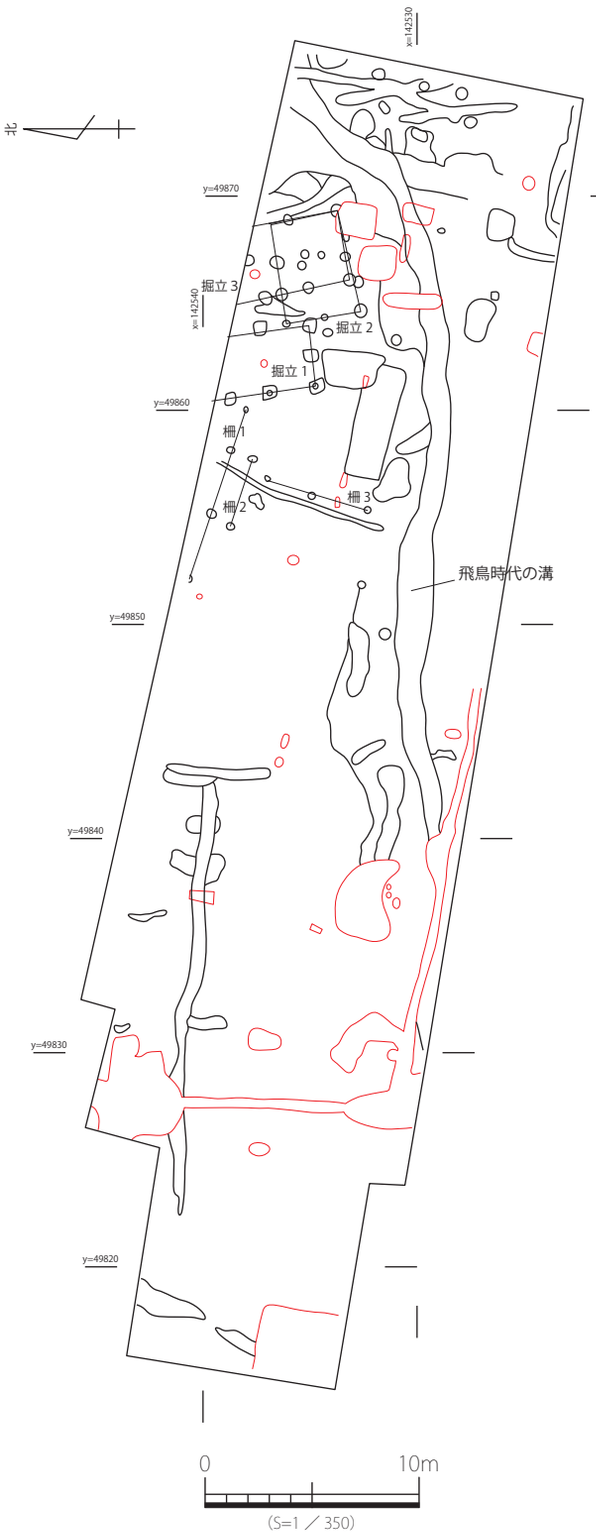
梁行２間 × 桁行２間の総柱建物で，倉庫と考えられます。面積は，約４坪あります。

第３調査区　竪穴建物

古墳時代後期の竪穴建物です。建物には北壁中央にカマドを作り，４本の柱で屋根を支えていました。大きさは一辺約 5m で，床面積は約 7.5 坪です。

第５調査区　古墳時代の溝

東西方向に延びる溝で，用水路であった可能性があります。出土した遺物の年代から，飛鳥時代の溝と考えられます。



第 5 調査区　遺構配置図

高松市では，香川県農業試験場跡地北側エリア基盤整備事業に伴い，平成 25 年 6 月から平成 26 年 3 月までの予定で，萩前・一本木遺跡の発掘調査を実施しています。

これまで実施した農業試験場ほ場内での調査では，古墳時代後期の首長居館や大集落が展開することが明らかになりました。

今回の調査ではこれまでに第 1 調査区から第 5 調査区までの調査を完了しており，古墳時代後期から古代の竪穴建物や掘立柱建物，溝や土坑などが見つかっています。

第 1 調査区では，古代の大形の柱穴をもつ総柱建物を，第 2 調査区では，古墳時代の竪穴建物や飛鳥時代の土坑を検出しました。土坑から出土した須恵器は，いずれも底を上にしていること，一緒に出土した台付椀は集落で出土することが稀であることから，地鎮具であった可能性があります。また古墳時代後期の落ち込みから金メッキが施された耳環が 2 点出土しました。耳環は，身分の高い人の装身具で，首長居館の主との関係が考えられます。

第 3 調査区では，古墳時代後期の竪穴建物や掘立柱建物，古代の溝などが見つかりました。

本日見学いただくのは第 5 調査区で，飛鳥時代の溝が東西方向に大規模に掘削されています。また，飛鳥時代の掘立柱建物を 3 棟や，古墳時代後期の竪穴建物を 1 棟確認しました。このほか，古墳時代後期から飛鳥時代の溝や土坑を複数検出しました。

今回の調査では飛鳥時代から古代の遺構や遺物が見つかっており，時期ごとに集落が少しずつ移動することが明らかになりました。また，耳環や須恵器の台付椀などの遺物は，萩前・一本木遺跡が一般の集落とは違った，有力な集落であったことを物語っています。

萩前・一本木遺跡は今後も調査が継続する予定です。今後の調査成果にご期待ください。